

国指定史跡・向羽黒山城跡

所在地：福島県大沼郡会津美里町字船場地内ほか
史跡指定：平成13年8月7日 文部科学省告示第134号
指定面積：505,746.8㎡

城跡の立地

向羽黒山城跡は、町の東側を北流する阿賀川に沿って細長く平坦部に突き出している白鳳三山（観音山・羽黒山・岩崎山）の岩崎山全域と羽黒山の一部に位置しています。

城の変遷

各種の史料によると、蘆名盛氏が家督を子の盛興に譲り隠居して、永禄4年（1561年）、向羽黒山城を隠居城として築城し、同11年に完成したが、その後、天正2年（1574年）に盛興が亡くなったため盛氏は黒川城（当時、蘆名氏が政治の中心としていた城、現在の若松城のある場所）に戻り、向羽黒山城は廃城になったとされています。

しかしその後、伊達政宗が向羽黒山城に出かけていることを示す史料もあり、その頃の社会情勢からも蒲生氏郷、上杉景勝の時代も継続して機能していたと考えられています。

城郭史における意義

これまでの研究から、城郭史上における向羽黒山城跡の意義を簡単に説明しますと、戦国時代も末期になるにつれ、城の作り方も山の城から平地の城へと変わってくるのですが、向羽黒山城は逆に山城として発展してきました。

また、向羽黒山城跡は、規模・質ともに東北を代表する山城であり、保存状態も良いことから発掘調査の実施などにより、東北地方の山城の特質や築城技術の変遷を解明するための有力な資料となるといっても過言ではありません。

蘆名盛氏とは

蘆名氏16代当主。大永元年(1521)生まれ。32歳で父盛舜より家督を相続すると、会津地方周縁の領主を服属させ、会津一円を治めました。さらに、盛氏は中通りの領主とも手を結び、東は現在の福島県郡山市周辺から西は新潟県東蒲原郡を領し、南東北において代表的な戦国大名となります。41歳のとき、向羽黒山城の築城に着工、その後8年の年月を費やして完成しました。その年、子盛興に家督に譲るも先立たれ、晩年まで蘆名氏を支えながら天正8年(1580)享年60歳で没します。

同年代の戦国大名：武田信玄(甲斐)・上杉謙信(越後)・北条氏康(相模)など。

向羽黒山城跡整備資料室(向羽黒ギャラリー)



〒969-6116
福島県大沼郡会津美里町字瀬戸町3208番地5
■開館日時
4月～12月上旬の土・日・祝日
午前10時～午後2時
※変更になる場合もあります。

向羽黒山城跡を紹介する施設です。向羽黒山城跡のこれまでの調査の状況や環境整備の状況を写真パネルで紹介・説明するとともに、山城跡のジオラマ模型や関連書籍も展示しています。また、山城を築城した蘆名盛氏をはじめとする蘆名氏の関連資料も紹介しています。

現地を見る前に見学することで、より深く理解を深めることができます。

アクセスのご案内



交通のご案内

JR只見線 会津本郷駅下車 徒歩20分
会津鉄道 南若松駅下車 徒歩30分
会津バス 会津若松駅前より会津本郷行き約35分インフォメーションセンター前下車 磐越自動車道 新鶴スマートICより約20分 会津若松ICより約30分

お問い合わせ先

会津美里町教育委員会教育文化課生涯文化係
〒969-6292 福島県大沼郡会津美里町字新布才地1番地
TEL 0242-55-0344 FAX 0242-55-1169

東北最大級の山城跡

国指定史跡

向羽黒山城跡

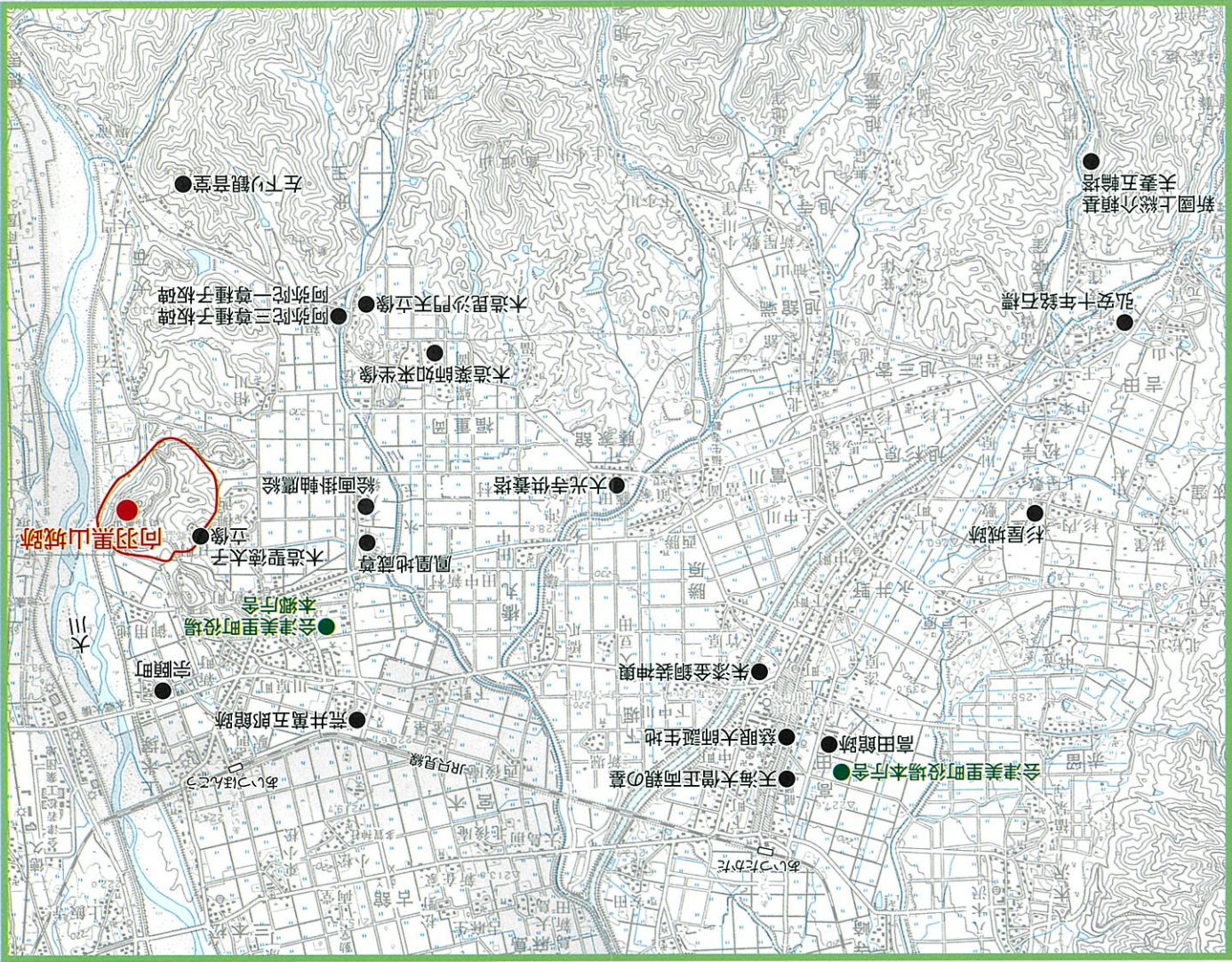
むかいはぐろやまじょうあと

続日本百名城選定



向羽黒山城跡全景

福島県大沼郡会津美里町教育委員会



関連文化財	主な集落等	新屋敷・根岸・米沢・雀林・八木沢・赤留周辺
	伊佐須美神社を中心とした会津文化発祥の地	高田・永井野 周辺
	向羽黒山城跡周辺に残る中世会津の風景	本郷・大石・大門・相川・三日町を中心として本町全域
	会津本郷焼の産地	本郷・柳西
	街道・連絡路と水運による文化・経済の交流	本町の西南縁
	幕府領と会津藩領の接点として	高田地域
	生業と深く結びついた民俗文化財	本町全域

《会津美里町の特徴を示す7つの関連文化財》

会津美里町では、平成30年度に「会津美里町歴史文化基本構想」を策定しました。そこでは、町内の文化財が直面する課題を見直し、今後どのように保存・活用していくかという方向性を示しています。

文化財の保存・活用にあたっては、町の歴史文化の特色を把握し、「関連文化財群」(特色を示す、指定及び指定されていない文化財を含めた関連する文化財の集まり)を定めました。

した。

《主な特徴》

中世の山城である向羽黒山城跡を中心として、町内には多くの城跡が残ります。また、関係する寺社も多く、会津美里町では中世会津の風景を見ることが出来ます。

《対象となる主な集落等》

本郷・大石・大門・相川・三日町を中心として、本町全域

会津美里町の関連文化財群
向羽黒山城周辺に残る中世会津の風景

宗廟町の由来

向羽黒山城を築いた蘆名盛氏のおかえ医師・糟尾宗願が屋敷を賜ったことから、この名がついたといわれています。

木造薬師如来坐像(鳳来寺)

鎌倉時代の作と推定される薬師如来。一木造で頭部から体躯、脚部と重厚な造りで表現されている。県指定重要文化財。

【注意】お寺やお堂への参拝は自由ですが、通常、仏像等の拝観はできません。

高田館跡

15～16世紀まで使用されていたと考えられる館跡で、周辺には同時期の館跡や寺院の遺跡が多くあることから、中世において、この場所が会津盆地南西部の重要な拠点であったと考えられます。



木造聖徳太子立像(三日町太子堂)

鎌倉時代に造られた聖徳太子像。手に蓮華、経巻をもつが、経巻を持つ姿は珍しい。県指定重要文化財。



左下り観音堂

創建時期は鎌倉時代と推定される懸造りの観音堂。現在の堂は江戸時代に改修されました。県指定重要文化財。

《主な関連文化財》

案内図

向羽黒山城跡は永禄4年(1561)から同11年にかけて築かれた山城の跡であり、山の中には数多くの削平地(曲輪)、土塁、空堀、堀切、虎口(出入口)などが存在し、城跡の形態が良好な状態で残されています。

2018年の新しい発見

平成30年度の地形確認調査の際に確認された「集石遺構」です。斜面から斜面裾にかけて極めて多数の石があることが確認されました。斜面裾には、窪んだ地形や区画用の石列などが確認されましたが、発掘調査を行っていないので詳細は不明です。遠くに磐梯山を望む位置にあり、さらには「御茶屋場」も近接していることから、向羽黒山城内部の利用実態解明への手掛かりの一つであるということが出来る遺構です。 **New**



①二曲輪城道

調査により一曲輪から二曲輪へ至る城道のルートと地形が確認されました。



②二曲輪石組

二曲輪にある石組です。本格的な石垣ではありませんが、この城が機能していた時期について良好な情報を伝えています。



③一曲輪にある豎堀

一曲輪へ上る遊歩道の脇には巨大な豎堀があり、その大きさを実感できます。



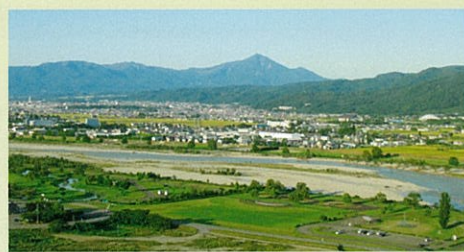
④一曲輪内の堀と土塁

堀から排出される土を盛り上げて土塁とすることで、大きな高低差が生まれます。このような手法はよく用いられていたようです。



⑤二曲輪虎口跡

石積みの枡形虎口(出入口)です。5～7m四方の広さがあったと推測されます。



⑥御茶屋場曲輪より

御茶屋場曲輪は蘆名盛氏が茶の湯をやっていた場所と伝えられています。天気の良い日は遠く磐梯山も望めます。



⑦北曲輪

土塁と堀に囲まれており、内部は三段に造成されています。試掘調査の結果から、未完成である可能性があります。



⑧大手口

この城へ入る最初の大きな虎口(出入口)です。この城の中では最大のものです。枡形になっています。



⑨土塁

土を土手状に盛り固めて、防御の役割を果たしたものです。城跡内には、たくさんの土塁が残されています。



⑩堀切

二曲輪と三曲輪を分ける、この城の中で最大の堀跡です。この他にも、城跡内には数多くの堀跡があります。

過去の調査で確認された遺構

※現在見ることはできません。



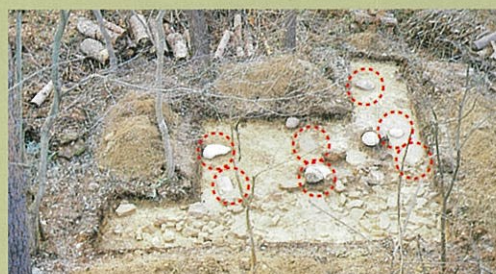
⑪一曲輪柱穴検出状況

平成15年度に行われた試掘調査で発見されました。堅い地山を掘り込んで、柱を据えていました。土の色の違いが分かります。



⑫一曲輪石積検出状況

一曲輪の平場の外側に残る高さ60cm程の石積。平場を縁取るように設置されていました。



⑬二曲輪礎石検出状況

平成14年度に行われた試掘調査で発見されました。大きな河原石を据えてその上に柱を立てていました。



⑭半地下式の蔵跡

地面を掘り、その周囲に石を積むことで壁面としていたようです。内面を均一に整えるように石を積み、丁寧な積み方であることが分かります。